

四谷の

千枚田だより



第95号

り組みを報告。国の重要な文化的景観に指定された「檜原の棚田」を見学する。サミットは生産性の低さや農家の高齢化などで、荒廃が進む棚田を保全しようと、一九九五年に高知県梶原町で始まった。今年が十七回目。サミットを主催する全国棚田（千枚田）連絡協議会によると、これまでの開催地で上勝町は人口規模で最小の自治体だという。今年「緑の階段 みんなで守ろう日本の棚田」がテーマ。町や棚田オーナー制度を進めるNPO法人「郷（さと）の元気」などで作る実行委員会が運営にあたる。会場は町コミュニティセンターや上勝中学校を予定し、棚田の「保全」「価値」「活用」をテーマにした分科会が開かれる。

第十七回全国棚田(千枚田)サミット 徳島県上勝町で開催



棚田の保全や中山間地の活性化を話し合う「全国棚田サミット」が徳島県内で初めて十月二十八、二十九日に徳島県上勝町で開かれる。棚田のある全国の自治体職員や大学の関係者ら約五百人が訪れ、各地の取

上勝町は「いつきゅうと彩り(つまもの)の里・かみかつ」をキャッチフレーズに、まちづくりに取り組んできた。きっかけは平成三年度に町の基本構想、振興計画の策定で、まちの活性化とは「次代を担う若者定住」と位置づけ、その一環として「人づくり」「若者定住政策」「住環境の整備」に取り組んだ。その中で「人

づくり」の取り組みとして、「強靱な問題解決能力を中心とした人間形成」を目標に「1Q塾」や「1Q運動会」などを開催している。1Q(いつきゅう)とは、町民が一休さんのように、問題(Question)を考え、知恵を使ったまちづくりを進めることを目指してつけられたフレーズである。1Q塾は、住民参加による「まちづくり1Q塾」、職員による「職員1Q塾」、三十九歳未満の若手や女性を必ずメンバーに加えた委員会による地区毎の「1Q運動会」が開かれている。「運動会」は、「地域の目標を定め、大勢の人々が頭脳と体力を使って行うまちづくり・地域間競技」の意味である。

サミット開催予定地

平成二十四年(第十八回) 熊本県
山都町 平成二十五年(第十九回)
和歌山県 有田川町

市立中部小学校校外学習

六月十六日、中部小学校五年生三十六名は校外学習の一環として千枚田を訪れ、棚田の果たす役割や生き物と共生した体にやさしいコミュニティづくり、また、昔、山津波のあった悲しい出来事にもめげず、近隣や村人の協力で早い復興を遂げた話、地質、文化(十王堂伝説)、千五百万年

前は「設楽海」という海であった。等々高低差二百メートルを二時間かけ、質問を交えながら真剣に学んだ。ふれあい広場で弁当を食べ、「やまびこの丘」まで歩いた。



礼状抜粋

①この前は、千枚田のことをいろいろ教えていただき、ありがとうございました。わたしが話を聞いていて一番いいなと思ったのは千枚田は、見ためだけでなく、中身もすごいということ。観光など、ただ見に来ただけの人は、「すごいね」で帰ってしまうけど、歩いてみてすごいみんなへとへとで、育てているおひやくしようさんと小山さんは、

年に何回も行ったたりきたりするから。一番すごいのは、千枚田の見た目じゃあなくておひやくしようさんたちなんだなと思いました。小山さんとみなさんが、がんばっているからだれが見てもすてきな千枚田になるんだと思います。これからがんばってください。

②千枚田で案内をしてくれた小山さん、千枚田のことをいろいろ教えてくれてありがとうございます。ぼくは魚とか虫とかが好きなので、千枚田のように生き物がたくさんいるところに住んでみたかったです。ぼくは千枚田でヤマツナミ(山津波)がおこつたと聞いた時、信じられませんでした。なぜかという、ヤマツナミがおこつたのにあんなにきれいな田んぼが作られていたからです。最初は信じられなかったけど、話の中で人々が苦ろうをして、ここまで田んぼを作つたという話を聞いて信じられるようになりました。千枚田の田んぼでは農薬をあまり使わないといっていたけど、それがカエルが虫をたべているからという理由があつたので、カエルはすごい人のやくにたつているのかと思いましたが、こんなにいろいろ千枚田のことを話してくれた小山さんに感謝しています。



棚田の楽耕

行政企画の稲作体験「三河の山里ツーリズム」において一般公募で参加した家族連れは四谷の千枚田で田植え、田の草取り、稲刈り等、農作業を通じた都市交流、自然満喫を味わつた。この企画も平成二十一年で行政は任を解いた。



さて、困つたのは四谷の千枚田に惚れ込み、うまい空気や人情に味を占めてしまった家族たち(リピーター)だ。なんとか交流を保ちたい願いもあり「棚田の応援団」として受け入れ、二年になる。この親子の嬉々とした姿をみると情に絡まれ、次の機会(今度は稲刈り)を心待ちしてしまう。どうも、この家族は(舜)が倒

れても来そうな心配がする。そこで、六月十二日の田の草取り、梅収穫の折、皆さんで話し合った結果、千枚田の持つ魅力が縁で交流が深まつたことから名称を改めて「棚田の楽耕」と決めることになった。

農業学習

七月九日、県立新城高校農業クラブの有志(エリート)達は入梅明けの灼熱のなか、オモダカやカヤツリグサが繁茂する実習田の田の草取りに汗をかいた。



新城設楽地域環境保全連絡会議

七月二十九日、午後二時から愛知県新城設楽総合庁舎において標記の会議が愛知県地域環境保全委員、

県市町村環境保全担当者等を集い開催される。議題は①愛知県環境部からの伝達・報告事項②重点地区のパトロール、③情報交換。この会議において「四谷の千枚田から地域おこしについて」と題して小山舜二が講演する。

またまたナンテンに卵塊が・

平成十四年、親子自然観察会において自然再生を視野にモリアオガエルのタバラツコを参加者とともに放した。その時、二本のナンテンを田んぼの畦に植え、周囲から笑われながらも自然繁殖を願つた。三年後の十七年から放流付近の田んぼで毎年数個の産卵がみられるようになった。二十一年六月三十日、ナンテンに念願の卵塊が産み付けられた。翌年は二個、そして今年の六月十一日にも一個の卵塊が産み付けられた。



行 平成二十三年七月十五日
鞍掛山麓千枚田保存会
文責 小山舜二